事業完了報告書

提出日：2023 年　3 月 31 日

1．事業概要

（1）資金分配団体名：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

（2）事業名：障害児等の体験格差解消事業

（3）事業実施期間：2019 年 11 月 20 日～2023 年 3 月 31 日

（4）実行団体名：宮城県障がい者カヌー協会、龍ケ崎市Ｂ＆Ｇ海洋クラブ、認定 NPO 法人オーシャンファミリー、認定 NPO 法人 Ocean’s Love、公益財団法人 身体教育医学研究所、有限会社 SIPMAN、NPO 法人 海の達人、株式会社 FEEL、NPO 法人 コバルトブルー下関ライフセービングクラブ、NPO 法人あそびとまなび研究所

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑ 完了　／　☐ 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2） 整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒ 全て公開した　／　☐ 一部未公開　／　☐ 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
（3） 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑ 変更があり報告済　／　☐ 変更があったが未報告　／　☐ 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1） 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい　／　☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。

（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑ 内部に窓口を設置 ／ ☐ 外部に窓口を設置 ／ ☐ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス委員会を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 ガバナンス・コンプライアンス体制について、2019 年 9 月に第三者機関である一般財団法人 非営利組織評価センター(JCNE)に委託し、1.組織の目的と事業の実施、2.ガバナンス、3.コンプライアンス、4.情報公開、5.事務局運営について、23 項目からなるベーシック評価を受け、全ての基準を満たしているとの評価をいただいたことで、現体制で齟齬はないか確認している。
（7） 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☑ 外部監査 ／ ☐ 内部監査 ／ ☐ 実施予定もない ※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 ・外部監査の実施者 あずさ監査法人
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況

☑ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している

☑ 報告書に表示している ／ ☑ イベント実施時に表示している

☑ その他

→「その他」を選択した場合は記載してください

（自由記述）：

JANPIA の許可をいただき、PO 経費で作製した実行団体への貸出用ライフジャケットの背中に大きくシンボルマークを印刷した。（大人用 22 着、子供用 54 着制作）

制作したライフジャケット

実際に着用して活動しているところ(非公開)

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	・日本教育新聞　2022 年 8 月 1 日第 6336 号
広報制作物等	有	・休眠預金事業評価報告書　　2023 年 2 月末完成
報告書等	有	・2022 年度 B&G 財団事業報告書(2023 年 4 月完成) ・2022 年度 B&G 財団トピック集(2023 年 5 月完成) ・2022 年度 B&G 財団活動実績報告書(2023 年 6 月完成)

5. 実行団体への事業完了時監査

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

実行団体への事業完了時監査は実施しましたか。
☑ 実施済み ／ □ 未実施（完了予定時期：　　）
→上記で「実施済み」を選択した場合、どのような評価できる点や課題があったか、その他気づいた点などを記載してください。 ・宮城県障がい者カヌー協会　2023 年 3 月 13 日(月)　実施(持田) ・龍ケ崎市Ｂ＆Ｇ海洋クラブ　2023 年 3 月 20 日(火)　実施(宮嵜) ・認定 NPO 法人オーシャンファミリー　2023 年 3 月 7 日(火)　実施(遠藤) ・認定 NPO 法人 Ocean’s Love　2023 年 3 月 15 日(水)　実施(持田) ・公益財団法人 身体教育医学研究所　2023 年 3 月 9 日(木)　実施(遠藤) ・有限会社 SIPMAN　2023 年 3 月 15 日(水)　実施(宮嵜) ・NPO 法人 海の達人　2023 年 3 月 16 日(木)　実施(遠藤) ・株式会社 FEEL　2023 年 3 月 17 日(金)　実施(宮嵜) ・NPO 法人 コバルトブルー下関ライフセービングクラブ 2023 年 3 月 17 日(金)　実施(持田) ・NPO 法人あそびとまなび研究所　2023 年 3 月 13 日(月)　実施(宮嵜) ●全体を通じて評価できる点、課題、気づきなど 本事業の実行団体１０団体は、コロナ禍の只中においても可能な限りの現場事業を実施し、また当初「水辺」に限定していた活動を、陸上を含めた形に変更するなどし、ほとんどの団体が当初計画以上のアウトカム実績を達成したことをまず評価したい。周知のとおり、コロナ禍においては対面、集合型の事業が大きく制限され、「集う、会話する、共に活動する」場が大きく減少したが、本事業で対象とする「障害児等」に対しては、全国的に健常児以上に大きな影響が生じた。そのような環境下でも粘り強く活動したことで、保護者や寄り添い支援団体等の理解、共感そして応援を得ることに繋がったといえる また、全ての団体が今後も継続して取り組みを行うと表明しており、3 年間の事業実施の成果、また今後の定着、拡大についても大いに期待できる。 一方で、多くの団体が事業継続に係る資金面の課題を挙げている。事業の性質、対象者の特性上、収益性を得ることは難しいため、行政等の支援や補助金の獲得、施設等利用料の減免、ボランティア・プロボノの募集と研修など、収支を抑えながら事業を行う工夫が求められている。それらの方面についても 3 年間の事業期間中に対応を協議し、取り組みを進めており、事業終了後に向けた活動継続への基盤づくりという面も一定以上評価できる状態にある。

6. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

・新たに認識した課題

実行団体である宮城県障がい者カヌー協会を通じて、障害者就労施設で働く障害のある方々の離職率が高いこと、また当該施設では費用や時間の問題などもあり、働く方々に対してレクリエーション等の厚生活動が中々提供できないことを知り、2022 年度の休眠預金通常枠申請に至った（結果は不採択）。

・今後の対応

実行団体 10 団体は本助成終了後もそれぞれ体験格差解消事業を継続することとなっており、問い合わせ等があれば引き続きできる範囲で支援していく予定である。また、当財団としても独自に寄付や助成金を得て、本事業を実施していく予定である。

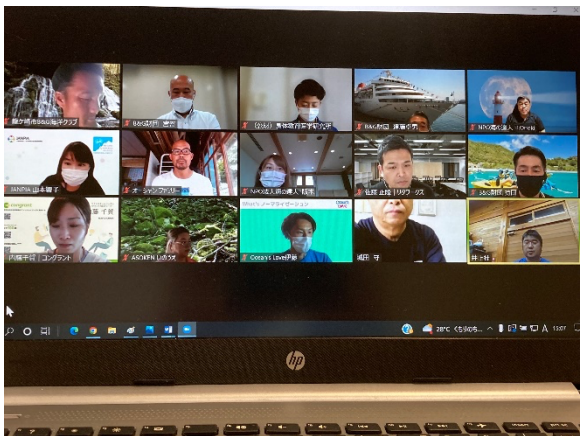
【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5 枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。



当財団が実行団体 10 団体を対象にリモートで 2022 年 7 月 4 日に開催した 2022 年度第 1 回全体会議の PC 画面。本事業助成終了後の出口戦略の一環として、ファンドレイジングに関しての講義や助成団体の紹介等を行った。JANPIA 担当 PO にもご出席いただいた。

2022 年 7 月に実行団体のオーシャンファミリーが開催したみんなの海遊びプロジェクトに参加した放課後デイサービス「スタジオみらい」の子供が海を楽しんでいる 1 コマ。当財団から貸し出した水陸両用車イスを使用しており、誰もが自然体験を行えるのも本事業の目的となっている。

2022 年 7 月に実行団体の株式会社 FEEL が管理する油谷青少年自然の家で放課後デイサービスに通う子供たちの活動の風景。

2022 年 7 月に実行団体の公益財団法人身体教育医学研究所が実施した日本体育大学 保健医療学部整復医療学科の「野外活動実習」の模様。

2021 年 11 月に有限会社 SHIPMAN(静岡県立三ケ日青年の家指定管理会社)が特別支援学校の児童にダブルハルカヌーの説明をしているところ。児童が乗っいているポンツーン(浮きピット)は、休眠預金事業助成金で購入した設備。

以上